

週刊 タバコの正体

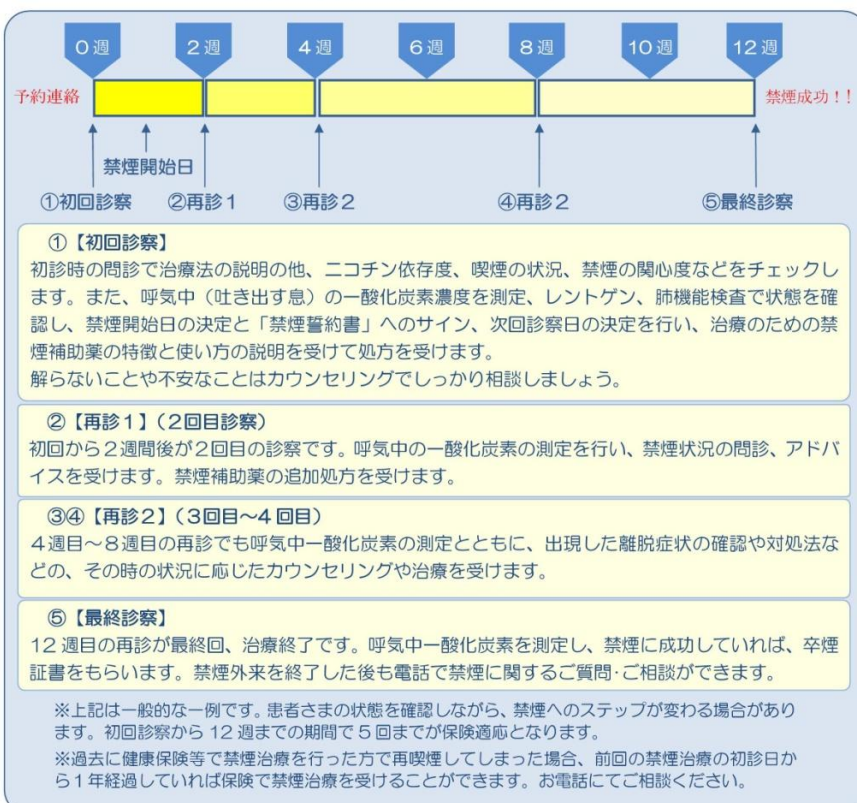
「タバコは20歳になってから」というフレーズは知っていますよね。未成年者喫煙禁止法という法律によって満20歳未満の喫煙は禁止されているからです。しかし、未成年者でもニコチン依存症になってしまっている人は少なくありません。皆さんのまわりの友人や先輩後輩にもいるかも知れません。

そんな人達は、好奇心や興味から何かのきっかけで、タバコに手を出してしまったのでしょう。その時、現在の君たちのようにタバコに関する正しい知識を持っていれば、吸い始めていなかったかも知れないと思うと残念で仕方がありません。と言うのも、高校生がニコチン依存になってしまうと大きなハンディを背負うことになるからです。

例えば、タバコを手に入れる手段を想像してみてください。まさか本人が直接コンビニなどの店頭で購入するわけにはいかないの、何か目立たない方法で苦勞してでも入手しなければなりません。さらに、隠れて吸うための場所とタイミングをいつも気にしなければなりません。その上、ニコチン切れによるイライラにも苦しめられるでしょう。そして、喫煙を発見されると謹慎などの指導を受けなければなりません、そんなケースがたび重なると進路にも影響してきます。

たまたま、タバコに手を出してしまったばかりに、こんなハンディを背負ってしまっているのはかわいそうです。本人たちはどんな気持ちでいるのかわかりませんが、本来の高校生活に使うべき時間や労力を隠れてタバコを吸うために使わなければならない状況から救ってあげたいと思っています。

治療の全体の流れ（一例）



さて、左の表は「お医者さんと一緒に禁煙する」禁煙治療の一例です。ニコチン依存症は“禁煙外来”のある病院で治療してもらえらる事を知っているでしょうか。

未成年でも治療を受けられるので、少しでもタバコを吸い始めた事を後悔しているのなら、治療してもらいませんか。

たまたま吸い始めてしまった事を一生続ける必要はありません。

産業デザイン科 奥田 恭久